

## 今日の医学

## 「介護福祉士」と看護師

山口大学医学部保健学科基礎看護学講座

正村啓子

1988（昭和63）年に、在宅看護サービスの充実を目指し、介護福祉士制度が発足して、早くも15年を経過する。介護福祉士と看護師の業務は実践面で重なり合う部分があり、それぞれの専門性を生かして相互協力し、質の高い看護・介護を提供することは重要な課題である。相乗効果をもたらすような相互協力ができるためには、まず、専門職業人として必要な能力を身に付け一人一人が自立しなければならない。そして、協働する相手の職業を理解し、共通点と相違点を認識する必要がある。

‘Nurse（ナース）’という言葉は、乳母、育児婦、看護師を意味する。育児も病人の世話も人類文化の歴史から、一家の主婦が家庭で行ってきた。それが、やがては病人の世話は看護師が、育児は保育士（保母）が専門職業として分担するようになった。高齢者や障害を持って在宅で生活する人々の増加している今日、「介護福祉士」が専門職業としてさらに分

化したのも変化している社会情勢を反映している。

介護福祉士と看護師の職務の共通点は、「個人が健康的に正常な日常生活ができるように援助すること」である。介護福祉士は、社会福祉士及び介護福祉士法により「身体上または精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障があるものにつき入浴、排泄、食事その他の介護を行い、ならびにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とするものをいう」と規定されている。制度化された時には、「在宅も含めて社会福祉の施設において、特に、高齢者と障害者の介護業務に携わる人」として位置づけられた。すなわち、介護福祉士のサービスの対象は、「病状がある程度固定化していて、医療のニーズが低く、家庭でも介護可能な健康レベルにある高齢者や障害者」である。

一方、看護師は、日本看護協会の看護の定義の中に、「健康のあらゆるレベルにおいて個人が健康的に正常な日常生活ができるように援助すること」とある。すなわち、誕生から死までのすべてのライフステージにある人、また、健康危険、健康破綻、健康回復・増進など健康のすべてのレベルにある人を対象にして、その人が持ち続けていた健康的な生活リズムを取戻し、より健康的な生活が作り出せるように手助けし教育指導することである。

このことは、両者の教育カリキュラムによく反映されている（表参照）。

介護福祉士			看護師		
区分	科目	時間数	区分	科目	単位(時間数)
一般教養科目	人文科学系、社会科学系、自然科学系、 外国語または保健体育から4科目	120	基礎分野	科学的思考の基盤 人間と人間生活の理解 ・人間科学・基礎科学・語学・保健体育等	13 (約360)
専門科目	福祉に関連する教科： ・社会福祉概論・老人福祉論 等	180	専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進 社会保障制度と生活者の健康 ・解剖生理学・病理学・微生物学 等	21 (約510)
	家事家政に関連する科目： ・家政学概論・家政学実習・栄養・調理	150	専門分野	看護の機能と方法、地域における看護 ライフサイクルと看護 ・基礎看護学・在宅看護論・成人看護学 ・老年看護学・小児看護学・母性看護学 ・精神看護学	36 (約945)
	保健医療に関連する教科： ・医学一般(60時間)・精神衛生(30時間) ・老人、障害者の心理(60)	150			
	介護に関連する教科： ・レクリエーション指導法 ・介護概論、介護技術 等	390	実習	臨地実習	23(約1035)
実習	介護実習、実習指導	510	合計		93(2895)
合計		1500	合計		

(介護福祉士養成指定カリキュラムをもとに作成)

(平成8年8月26日文部省・厚生省令第1号をもとに作成)

表 介護福祉士と看護師養成のカリキュラムの比較

介護福祉士資格取得には、介護福祉士養成施設卒業による登録方法と、介護業務3年以上を受験資格とする国家試験合格者による登録方法がある。介護福祉士養成施設卒業により資格を取得するためには1500時間の講義演習が課せられている。福祉に関する教科目として「社会福祉概論」「老人福祉論」「障害者福祉論」、家政学に関して「家政学概論」「家政学実習」「栄養調理」、介護技術に関して「介護概論」「介護技術」「リハビリテーション論」等を学ぶ。人間の健康や疾病に関しては、「医学一般」60時間、「精神衛生」30時間程度である。このように、「医療ニーズの低い高齢者や障害者の日常生活の世話全般と家族支援・指導」に必要な専門科目が設けられている。

看護師になるためには、看護師養成施設を卒業後、国家試験に合格しなければならない。看護師養成課程3年課程を卒業するための修得単位数は2895時間(93単位)である。専門基礎分野として「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」「社会保障制度と生活者の健康」に関して「解剖生理学」「病理学」「微生物学」等の科目により、人間の健康や疾病に関する基礎知識を20単位(約510時間)以上を学ぶ。さらに、専門分野では、「看護の機能と方法」に関する「基礎看護学」を基盤に、「ライフサイクルと看護」や「地域における看護」について、「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「在宅看護論」の教科目により、各専門分野における人間の健康や疾病とその看護について学び(36単位 約945時間)、それを臨地実習する。

以上のように、看護師は、「健康(疾病)」との関連をおさえながら診療の補助業務も含めて、すべての健康の段階にある人、ライフサイクルのすべてのステージにある人の日常生活の援助指導を行うが、介護福祉士は、特に、家庭でも介護可能な健康レベルにある高齢者や障害者を対象に、日常生活の世話全般と家族支援・指導に力を注ぐ。

国民医療費削減への対策に、国は在宅ケアを推進している今日、これまで入院して行われていた治療や処置が在宅でも行われるようになり、在宅看護サービスの対象者が重度化し、看護師による医療行為の実施が増加しているのが実情といわれる。看護師はこのような時代の変化に対応すべく、また、質の

高い看護の提供を目指して、「看護学教育のあり方に関する検討会」が全国の看護系大学を構成メンバーとして発足し、実践と教育の場にいる看護師が参加して、教育・臨床現場での実践をフィードバックしながら検討が行われている。

専門職業人として一人一人が自立し、時には領域を超えながらもお互いを尊重し、対象者のために相互協力できる専門職業人の育成を目指したい。



## 消化器癌のワクチン療法

山口大学医学部分子制御系・外科学第二講座

岡 正朗

はじめに

腫瘍は元来自己の細胞であり、ヒト癌の抗原性は極めて低く、癌特異抗原の証明は長い間困難であった。1991年、Boonら<sup>1)</sup>が初めてヒト腫瘍拒絶抗原MAGE-1をメラノーマから同定して以来、種々の悪性腫瘍でヒト腫瘍組織適合抗原複合体(major histocompatibility complex: MHC) class I分子拘束性に認識され、免疫原性を発揮するヒト腫瘍拒絶抗原が分離同定された。近年、この腫瘍拒絶抗原ペプチドを合成した、癌ペプチドワクチン療法も行われており、またMHC class II 拘束性の腫瘍抗原ペプチドも分離同定されている。本稿では腫瘍拒絶抗原について概説し、CD8陽性細胞傷害性T細胞(cytotoxic T lymphocytes: CTL)により認識される腫瘍拒絶抗原分子上のエピトープペプチドを用いた癌ワクチンの開発の現況について述べる。

なお、腫瘍抗原、癌抗原、癌拒絶抗原、癌退縮抗原等の呼称もあるが本稿では腫瘍拒絶抗原に統一した。

### 腫瘍拒絶抗原とは

腫瘍細胞内で生成された何百ものアミノ酸から構成されている腫瘍拒絶抗原は、正常自己蛋白と同様にプロテアソームにより多くは8~9個のアミノ酸